



6月10日、「憲法9条の会」の記者会見



No.361

編集発行人 中西三洋
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

〒113-0034 東京都
文京区湯島2-4-4
平和と労働センター・全労連
会館
電話 03(5842)6461
FAX 03(5842)6462
振替 00110-6-97793
定価 50円

戦争と暗黒政治の体験者なればこそ

今日、同盟会員が、戦争と暗黒政治の実体験もしくは追体験者であるゆえに、なお現代的役割を果せなければならぬところに、世界と日本の重大な情勢があります。スペインはじめヨーロッパ議会やイギリス地方議会でのイラク戦争反対勢力の躍進、そして東京・狛江市での一対八の既存陣地の劣勢をはねかえしての共産党首長の三選。

草の根からの改革の胎動、いわゆる「草の乱」は随所に起きてきています。

自然の移り変わりでめぐりくる夏のこの時期、近年熱く燃える政治の季節となっています。

本号を手にする時は参院選の直後、したがっていまはその重大な参院選の真只中。選挙戦最大の争点となっている年金問題では、「百年安心」どころか「十年崩壊」。強行可決した年金改悪法は破棄して、国民的討論で抜本的に制度確立を」の声が全国にわきおこっています。

サミットでのブッシュとの出会いを利用した多国籍軍参加の誓約。アメリカの指揮下、地球的規模での自衛隊の海外派兵に道をひらくとともに、年金改悪法の強行成立にみられる、外交内政両面での小泉首相の独断専行に、日本国憲法の重大危機、日本ファシズムの危険さえ直感させられます。

主 な 記 事

- 国会請願の結果について……………2
- 国会請願紹介議員一覧……………3
- 私の八月 戦争体験……………4
- 顕彰碑・北海道札幌市/時の焦点・教育基本法……………5
- 抵抗の群像/那須てつ……………6
- 同盟歌壇/碓田のぼる選……………7
- 国連要請ツアー/地方議会の意見書採択……………8

五・一八国会請願の結果について

同盟本部事務局長 斉藤邦雄

今年五月十八日の国会請願行動は大きく盛り上りました。

過去最高の請願行動

会場いっぱいにあふれた全国からの請願代表一四一名が、三万四千二百余筆の署名を持って衆参両院の各党国会議員四一七人を訪問しました。

過去最高の数の請願行動は、衆院段階で年金改悪法案と有事関連法案が強行採決され、これに反対する抗議行動が連日強められている中で行われました。

各党の議員も秘書も、「治安維持法犠牲者への謝罪と賠償を要求する請願の趣旨については真摯に聴いてくれた」という感想が語られていました。その結果、今年は民主党三五名その他計四三名が新たに紹介議員を受諾しました。

しかし、民主党、共産党、社民党が主な「紹介議員」承諾者は、残念ながら昨年(一七四名)に比べ二九名減少し一四五名でした。

紹介議員後退の要因

「賛同議員」の登録が減少した原因をみてみますと、

第一に、昨年、承諾した議員の中で衆院選で落選または引退した議員が共産党十三名、社民党十四名、民主党十六名、無所属二名など計四五名の多数にのぼったことです。

自民、公明の政府与党が「国賠法」に反対し、「紹介議員」を承諾しない態度をとっていることに、革新の議席を拡大し、「国賠法」制定の力を国会内に確固として築いていくうえで、「国政選挙」への取組みがきわめて重要な意義をもっています。

第二に、これまで、紹介議員に応じてくれた民主党が、昨年の総選挙で一定の前進をしたにもかかわらず、衆院議員十四名と参院議員九名その他計二七名が、今年是不紹介となっていることです。

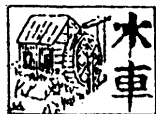
第三に、近年、財界が主導する



「保守二大政党論」の影響による国会状況の変化も無視できません。

したがって、国会議員にたいして、われわれの治安維持法犠牲者への謝罪と賠償を要求する運動の今日的意義について、あらためて日常的系統的な宣伝・啓蒙活動を重視していく必要があります。

同盟としては、五〇万署名達成の意義とあわせて、これらの諸問題をほり下げて討議し、来年の国会請願めざし、紹介議員拡大の意識的努力を強めることが必要となっています。



木車

「私はタイガース・ファン。先日吉田義男元監督と対談しましたが、この前の戦争で野球界の犠牲者が話題にのぼりました。戦死者一三〇名。巨人軍の名投手沢村栄治、阪神の大打者景浦将也戦場に狩り出されて命を奪われました」▼東京革新懇フォーラムの席上、日本共産党の市田忠義さんが開口一番語りはじめました。参院選を前に、のっけからきびしい内外情勢の話かと思

いのほか、和らいで幅広いしかし痛恨の話の切り出しに、会場を埋めた参加者は身をのり出して耳を傾けました▼後楽園や神宮球場にほど遠くないところに生まれ育ったがゆえに、往年の沢村や景浦、ワセダの松井栄造などの雄姿を直接目撃した幸運にめぐまれました▼九州南部の特攻出撃基地で飛行服のまま十球ほどキャッチボール。当時、名古屋軍」のエース石丸投手も沖縄海域に飛立ち、還らぬ人となりました▼あれから六十年。名古屋軍の後継、中日ドラゴンズ」が首位に立っています。(元)

国会請願紹介議員一覧

6月11日現在

*印は新

衆議院

民主党・
無所属クラブ

* 阿久津幸彦 石毛 鏌子
* 奥田 展三 菅 直人
* 北橋 健治 小宮山洋子
* 今野 東 中川 治
* 中川 正春 榑崎 欣弥
* 羽田 孜 細川 律夫
* 牧野 聖修 松野 信夫
* 松本 龍 市村浩一郎
* 大出 彰 古賀 一成
* 佐々木秀典 永田 寿康
* 藤田 一枝 藤村 謙公
* 松木 謙公

横路 孝弘 大谷 信盛 梶原 康弘
* 川内 博史 * 城島 正光 * 寺田 隆一
* 土肥 秀夫 平岡 雄吉 前田 章宏
* 大畠 誠一 * 菊田まき子 * 中村 哲治
* 西村智奈美 * 伊藤 忠治 * 池田 元久
* 稲見 哲男 * 小林 憲司 * 辻 恵
* 海江田万里 * 小林千代美 * 篠原 孝
* 中塚 一宏 * 肥田美代子 * 藤田 幸久
* 筒井 信隆 * 石井 敦一 * 大島 敦
* 玄葉光一郎 * 小泉 俊明 * 高橋千鶴子
* 鉢呂 吉雄 * 古川 元久 * 山内おさむ
* 鈴木 康友 * 近藤 洋介 * 長浜 博行
* 原口 一博 * 鎌田さゆり * 岸本 健
* 笠 浩史 * 鹿野 道彦 * 田島 一成
* 五島 正規 * 山岡 賢次 * 井上 和雄
* 渡辺 周 * 枝野 幸男 * 近藤 昭一
* 古本伸一郎 (73名)

日本共産党

赤嶺 政賢 石井 郁子 穀田 恵二
* 佐々木憲昭 * 志位 和夫 * 塩川 鉄也
* 高橋千鶴子

社会民主党・
市民連合

東門美津子

衆議院 計八九名

参議院

民主党・
緑風会

藁科 満治 大塚 耕平 田名部匡省
* 大淵 綱子 * 平田 健二 * 谷 博之
* 北沢 俊美 * 小林 元 郡司 彰
* 高橋 千秋 羽田雄一郎 山下八州夫
* 大脇 雅子 角田 義一

日本共産党

市田 忠義 緒方 靖夫 大沢 辰美
* 紙 智子 * 小池 晃 * 小泉 親司

自由民主党

* 谷畑 孝

土井たか子 * 照屋 寛徳 * 山本喜代宏
* 横光 克彦 * 阿部 知子 (6名)

社会民主党・
護憲連合

小林美恵子 富樫 練三 西山登紀子 畑野 君枝
* 宮本 岳志 * 吉岡 吉典 * 吉川 春子
* 大門実紀史 * 八田ひろ子 * 岩佐 惠美
* 井上 美代 * 林 紀子 * 井上 哲士
* 池田 幹幸 (20名)

護憲連合

淵上 貞雄 福島 瑞穂 * 太田 昌秀
* 田 英夫 * 又市 征治 (5名)

国民改革連絡会

(自由党・無所属の会)
* 島袋 宗康 * 岩本 壮太 (2名)

無所属

自由民主党・
保守新党

西川きよし * 中村 敦夫 * 黒岩 宇洋
* 北川 知克 * 田村 公平 (2名)

参議院 計五六名

衆議院議員 計八九名

参議院議員 計五六名

合計 一四五名

(うち新紹介議員四三名)

年度別国会紹介議員

一九九四年	三八名
一九九五年	六二名 (+24)
一九九六年	六九名 (+7)
一九九七年	七四名 (+5)
一九九八年	八九名 (+15)
一九九九年	一一四名 (+26)
二〇〇〇年	一四〇名 (+25)
二〇〇一年	一五一 (+11)
二〇〇二年	一六〇 (+9)
二〇〇三年	一七四 (+14)
二〇〇四年	一四五 (+29)

私の八月

敗戦を迎えた時

間もなく敗戦の日がやってきます。今回は二人の方に「八月」を語っていただきました。陸軍、海軍とも「偽善的な組織」でした。いかに生きるべきか——苦闘と学習の中で新しい人生を選択し、敢然と出発されたのでした。

「死んで帰れ」の時代に「生きて帰れ」

東京・荳沢忠雄

私は東京商大（現一橋大）二年在学中、いわゆる「学徒出陣」で兵隊に行くことになったので、恩師の高島善哉先生のお宅へあいさつにいきました。すると先生が、卑怯、未練なことをしろというのじゃないが、生きて帰ってくれ」といわれたのでびっくりしました。当時は兵隊を送るのに日の丸の小旗を振って「夢にでてきた父上に、死んで帰れとはげまされ……」（露営の歌）と歌っていました。いまから思うと、兵隊を送るのに

「死んで帰れ」と歌うなんて非常識なことをしたのですが、当時はそれが常識だったのです。

その常識に反して先生が「生きて帰れ」といわれたのはどんな意味があるのだろうかと考えましたが、わからないままに金沢の陸軍歩兵部隊に入隊しました。するとしばらくして「ハハア、そうか」とわかりました。

軍隊では連隊長の巡回査察を前にして天皇陛下から預ったとされる小銃をはじめ衣服など官給品の員数（いんずう）がたりないと、「員数を合わせる」と称してほかの中隊からドロボーしてくるのが公然の秘密になっていました。軍隊とは、純真な若者を集めてきてドロボーを教えるところだったのです。「こんな偽善的な組織のために死ぬなんてバカバカしい」と気がついたので「生きて帰れ」の意味がわかりました。

このことを出発点にして戦後、いかに生きるべきかを勉強し、私の新しい人生がはじまりました。ふたたび「死んで帰れ」の時代に逆戻りさせないために、小泉首相らの「憲法を改正して自衛隊を正式の軍隊にしたい」というたく

らみをうちやぶってしまわなければ、との決意を新たにします。

私の敗戦と天皇信仰の崩壊

神奈川・横川定司

八月十五日正午の「玉音」放送に、海軍兵学校江田島本校の全生徒と教官が校庭に集められた。しばらくすると、岩国海軍航空隊の「月光」が「戦争継続に決起せよ」のビラを撒き、小型潜水艦数隻が菊水の幟を翻しながら江田内をまわり、出撃の意思を伝えていた。

しかし、校内は特別の混乱もなく生徒はそれぞれの故郷に帰っていった。所属する分隊解散の際別の言葉述べ合ったが、私は敗戦・降伏はこの神国に一時覆った暗雲に過ぎず、われわれの手で払ってみせる」と決意を語ったことを記憶している。

東京の家は焼かれ、出身地に疎開していた両親のもとへ帰った私は、友人も無くひとり悶々としていた。その頃、ラジオが炭鉱夫の募集を報じていた。私は即座に炭坑で働こうと決め、十一月末、つ

てを頼って平（いわき）・赤井の小炭鉱（あとも）後山見習として働いた。

十八歳になったばかりの元海軍将校生徒にとつて、敗戦を「聖戦の挫折」とつげとめ、何時かは仇討ち」とをいう、無念の思いは消えていなかった。天皇への忠誠を貫くことは敗戦下にあつても天皇のために死ぬことができる信念を持つことだ。そのために自らの心身を鍛えなければならない。その第一歩を炭坑で試そう。大げさに言えば、その志は「受難と殉教」によつて実証されなければならない、という思いだったかもしれない。

その後、落盤事故に遭遇し「このまま死ぬことができるのか」と自問自答を繰り返した。

東京の友人が貸してくれた「将来の哲学の原理」（後年この著者が唯物論者フョイエルバツハであることを知った）を繰り返し読み、私の天皇観が崩れた。私にとつての天皇は客観的な実在ではなく、自分の頭の中に作り上げた、「至高」の存在の想像的反映としての神々天皇に対する狂信であつた。私はこのとき初めて個人として敗戦を自覚した。

顕彰碑

||||| 運動

北海道札幌市

北海道解放運動無名戦士の碑



札幌市豊平区にある月寒公園北東端の前に北海道解放運動無名戦士の碑があります。月寒中央通国道三六号線(四丁目)でバスを降り、遠軽信金横の道を公園につきあたり、右に折れると、マンションと幼稚園にかこまれた一角に碑が見えてきます。

大きな掲示板に碑の由来が書かれています。「かつて専制と圧迫が支配する北海道において、生活と権利、平和と民主主義のためにたたかい、官憲に捕われ拷問をうけて惨殺された人たち、あるいは灰色の獄中であるいは迫害と尾行

に家郷を追われ窮乏裡にその生涯を閉じた人たち、戦後解放運動の先頭にたつたたかい倒れた人たち」を顕彰する碑として一九四九(昭24)年、札幌市大通西九丁目の木田茂晴弁護士宅の庭に創建され、一九六六年現在地に移設されました。

木田茂晴は戦前、労働党の幹部として初の普選にも立候補し、三・一五弾圧などにも屈せず、多くの弾圧事件の弁護活動をしてきました。

碑は彫刻家山内壮夫(あやふさ)の制作で「人間性と犠牲の精神(労働)を上部の丸い穴は「己を無にして闘った人の天に通じる心境」を表現したとのべいます。また碑の中央には「だれが斗(闘)わずにいられよう/斗うであらう/斗わねばならぬ」と詩人西尾章二の詩の一節が刻まれています。

(北海道本部 宮田 汎)

時の焦点

350号(03年8月)の本欄で紹介した教育基本法改悪めぐる動きは、さらに緊迫の度を加えています。

六月十六日、与党の「改正」検討会は中間報告を発表。文科省は来年の通常国会への「改正案」提出を表明しました。「伝統文化の尊重」、「公共の精神」そして愛国心の強調と、現行の基本法の理念を完全にくつがえし、「お国のために命を投げ出してま

まわらない日本人へ(西村慎一民主党議員)の育成、一部エリートのための差別化・序列化教育を公然と目ざすものになっていきます。

この、発表に先立つ十一日、三百人以上の自民・民主国会議員でつくる「教育基本法改正促進委員会」総会が、新

「お国のための教育」ゆるさぬ
—教育基本法、重大段階に—

ことです。狂気じみた日の丸・君が代の強制、「新しい歴史教科書をつくる会」の教科書的大量採択と国民の間への影響強化めざす策動が文科大臣や都教育長の公然たる激励のもとに行われています。「心のノート」、奉仕活動強要、通信票への愛国心評価等々、国家・国益を第一に考える「心の軍事訓練」、「心の総動員態勢」がおしすすめられています。

事態はきわめて重大です。しかし、こうした攻撃への反撃も全国各地で根づよくひろがっています。昨年の十二月二十三日の「子どもはお国のためにあるんじゃない!・教育基本法改悪反対」全国集会(日比谷・四〇〇〇人)は新たなたたかいのスタートとなりました。

あの侵略戦争が「お国のために命を捧げ、黙々と」お上」に従う日本人づくり」教育と、それに反対批判する者への徹底的弾圧の上にすすめられたという歴史の教訓を、今こそ国民のものとしていくときです。

(異)

抵抗の群像

黒くふくれあがった手

姉・那須てつ21歳



山形県 伊藤てる

姉(那須てつ)が死んで今年で六十七年になる。二十八歳だった。姉は青春時代を農民運動に情熱を燃やした。あの激しい情熱はどこからきたのだろうと今でも考えるときがある。

の春頃になると、夜中に帰る時が多くなった。母は叱るが、「てつ子」の言うことは間違っていないと思っている。

三一年(昭和6)5月1日、姉は谷地のメーデーに参加したことから大騒ぎとなり、翌朝の各新聞にデカデカと報道された。

「うら若き女性谷地のメーデーに参加」「紅一点若き女性谷地のメーデーに参加」...

確かに多くの本を読んで勉強はしていた。読んでいた本は月刊誌では『婦人公論』『改造』『文芸戦線』、プロレタリア文学、ロシア文学、経済学など専門的なものは全部図書館から借りていた。彼女の書斎は——といえば、六畳間の納戸で、踏み台を椅子に、筆笥の上が机で、いつも同じ姿勢で読書していた姿を今でも思い出す。

姉は地味な性格で、目立たない存在だった。父も母も彼女を信頼しきっていた。ところが一九三〇年(昭和5)春頃より外出が多くなり、夕方になると出て行く。母に注意されるようになった。翌年

三月の小田島争議で活動家農民が相当数警察に捕まり、拷問が原因で獄死した者さえいた。姉は家を出た。男の中で女一人の行動で

ある。姉は静かでも頑張りやで責任感が強い。地主や警察と争わなければならぬ時もある。そのために何回となく警察に検束された。私は、姉が山形署にすれば必ず面会と差し入れに行く。署に着替えて必要品を持って。

姉は看守に連れられて面会室に入る。私は、面会室に入った姉を見て声を出して泣いた。綻びたモンペエ、汚れた襦袢にわらぞつり。

見ると片方の手が黒くふくれ上がっている。私は涙を流しながら、拷問だな、と思った。姉は「大丈夫、心配しないで。差し入れありがとう。またお願い」と言った。

私は泣きながら帰ったこともある。母には言えなかった。姉は着物をぬがせるなど女に対するひどい拷問を寒河江署で受けていたが、姉は話さなかった。一緒にいた同志の言である。唱歌も歌えない姉が、労働党の大山郁夫先生と北郡の小田島、東根、高嶺などで演説会をやっていた。一九三一年(昭和6)、日本が中国侵略する

時期である。

三三年になると、佐野、鍋山などが獄中から転向声明文を出したのを機に次々と転向者が増えた。

転向しない人たちはものが言えなくなり、自分の殻にじっと耐えるより道はなかった。姉の夫である佐久間は小田島事件・治安維持法違反で三年の刑に服役した。姉は、佐久間の服役と同時に、シンパを頼り上京した。東京にはまだ非法の線があつたらしく、経済誌の記者の仕事に就いた。

一九三七年(昭和12)、姉は結核に冒され、山形に帰ってくる。結核性腹膜炎と腸結核という治ることのない病氣なのに、姉は治つたら東京に帰る約束をしてであると。

その頃、佐久間は署内ですでに転向していた。7月上旬、佐久間と橋本新七氏が突然姉のもとに現れた。おそらく藤井教誨師の計らいで釈放されたなと思った。それから四〇日間、佐久間は姉の看病を続けたが、姉は他界した。せめて佐久間の転向だけは知らせないでほしいと私は願った。姉は8月16日、二十八歳で終わった。姉の病床に仲間は誰も顔を見せなかった。告別式も、佐久間、橋本、伊藤、内表の五十嵐武夫、あとは那須の身内だけ。誰も動けない、話せない時代に変わってしまった。

(「不屈」山形版より編集部要約)

同盟歌壇

碓田のぼる選

奉公の先より兄は読み終えし本を毎月おくりくれたり
碓田 寺島 清文

新しい社会を目指せし我なれど兄はひそかに支えてくれし

〔評〕二首とも亡兄への回想であろう。兄も弟も勉強好きであった。奉公しなければならぬような生活の中で、兄が弟に寄せる愛情と、年経て深い感銘を歌う弟と、兄弟愛が深くにじむ。作者が革新運動に入って活動するようになって、兄はこの弟を支え通したと二首目。

脱走兵の捜査に祈る逃げくれよと錦西広野の真赤な月に
東京都 若林 義文

天皇の兵は餓死すも称えられ吾れ反戦に生きて永らう

〔評〕「錦西」とは中国のどこかの地名であろうか。軍隊生活に耐え切れず、遂に脱走した兵士に、無事逃げてくれよと祈っている作者のヒューマニズムのよくあらわれている歌である。一首目語句には、状況の緊迫さが象徴されている。二首目、作者の信念の吐露。

箸にぎることすらできぬ妻を守り誠実に暖かし田熊氏の声
静岡県 江川 佐一

イラク人の虐待されし記事に説く逆さ吊りさる過去の日本を

〔評〕一首目は「田熊氏」の人間性をよく歌っている。原作三句は「妻と生き」であった。二首目は、アメリカによるイラク人虐待の報に、治安維持法時代の、たとえば小林多喜二の一九二八年三月十五日、のような小説の場面を出し、帝国主義の残虐さを告発している姿。

「戦争する国」にしようと、改憲勢力の動きが急ピッチです。焦点は九条の戦争放棄条項の改廃にあります。

こんど制作されたビデオ「憲法」は、労組、民主団体などが共同して完成させたもので、去る6月10日に記者会見した学者・文化人の「憲法9条の会」アビールにも一致する見解のある内容となっています。

冒頭に、最初の憲法である明治憲法が紹介され、国民は天皇の「臣民」であり、天皇の名の下に侵略戦争に狩り出され、これに反対した人々は治安維持法によって弾圧、自由と民主主義は封殺され、山

本宣治、小林多喜二のように虐殺投獄されたことを紹介しています。現在の日本国憲法は、過去の人権抑圧と侵略戦争の反省からつくられた憲法であり、明治憲法と違って国民が主人公となり、国の政治や行政はこれを守る義務がある

こと、同時にアジアと世界の人々に誓った憲法であることを伝えていきます。

その根本には第九条があり、平和の基本に人権や民主主義があることを教えています。またフランスやソビエトに並ぶ人類の到達点としての先進的な憲法となっていること、とくに新憲法で最も大きく前進した女性の権利を、作者の一人ベアテ・シロタ・ゴードンさんの証言が語っています。改憲勢力と政府の言う「国際貢献論」や、押しつけ憲法論」を批判し、アメリカの世界戦略に組み込むための改憲であること、そして世界は平和憲法の方角にむ

見ながら学べる ビデオ 「憲法」



かっていることを教えてください。

小集会、学習会などで大いに活用できる教材です。上映時間30分、四七五〇円、団体割引があります。申込先・共同企画（TEL 03・3812・9215 FAX 03・5803・9530） 信

国連要請ツアー

今からでも大丈夫、積極的参加を

いよいよ八月三日～十三日「第八回国連要請とヨーロッパ観光・戦跡を訪ねる旅が迫ってきました。今年は国際人権活動日本委員会の方々も参加して「ジャパン・デー」を開催、交流の輪がまた大きく広がります。

中央区の母親大会関係者が「南京玉すだれ」を披露し、福岡の女性「〇名余の方々」が「正調炭鋸節」を揃いのゆかたで踊ります。

東京の川口さんは仲間と共におみやげの「水墨画」を製作中。板橋の四津谷さん寄付のうちわ五〇

枚には新婦人が絵手紙を画いている最中です。全国の皆さん外国の人へブレゼント・アイデアを提供してください。今年こそ、国連人権小委員会から日本政府に対し治安維持法犠牲者への謝罪と賠償の勧告の道が開けるよう各国の人々と交流を大きく広げましょう。

まだまだ間に合います。ジュネーブでの要請のあと、同盟ならでは有意義な旅もあります。是非回りの方々にも呼びかけて、一緒に参加をお願い致します。

中村洋子(ツアー事務局長)

治安維持法同盟顧問の 太田まちさんが死去



故・太田まちさん

治安維持法同盟、同奈良良本部の顧問である太田まちさんが16日、入院先の吉田病院で死去。97歳でした。太田さんは岡山県出身。戦前、

大阪で看護士となり、東京へ出て社会主義運動に身を投じ、何度も検挙され厳しい拷問を受けました。戦後は治安維持法の犠牲者に対する国家の謝罪と賠償を求める運動などに参加。一九三一年日本共産党入党、戦後九二年再入党。九七年、91歳のとき国連人権委員会に参加、非人間的な治安維持法弾圧を告発し、国境を越えて感銘をあたえました。著書に『素手の女』。自宅は奈良市。

地方議会での意見書、要望書

●和歌山県南部町長山崎繁雄氏は、六月八日、国家賠償法の制定について内閣総理大臣、衆参両院議長、法務大臣に要望書を提出。これで県下の要望書提出首長は、和歌山市長、湯浅町長について三首長となりました。

●山口県平生町、小郡町両議会が国賠法制定への意見書趣旨採択寄贈図書

『もつと知りたい今野大力』

治安維持法同盟道北支部編発行

事務局日誌

6月8日 国際人権活動日本委員会に国際部斉藤、中村参加

6月12日 東京出身の革命家加藤四海墓参会に斉藤、中村参加。

6月18日 「不屈」編集会議

■「治安維持法と現代」No.8

原稿募集

【募集内容】時事評論、同盟運動論、治安維持法事件の史実、顕彰記、その他。【字数】八〇〇〇字以内。短文歓迎。【締切り】八月末日。(註)採否、訂正は編集委員会に一任があります。

「治安維持法と現代」編集委員会

●治安維持法と現代を結ぶ同盟の総合誌

『治安維持法と現代』

2004年春季号
好評発売中

【主な目次】打って出よう！日本国憲法もって(奥平康弘)、「国民保護法」とは国民統制動員法(内藤功)の他、教育基本法論、「つくる会」の動向(依義文)、横浜事件と人権(橋本進)、野呂栄太郎、西田信春、上甲米太郎論、植民地台湾の支配と抵抗。【特集】太平洋戦争—昭和天皇と原爆開発計画、学徒出陣、撫順戦犯管理所、有事法制をとりあげる。「話題を読む」、犠牲者顕彰活動、短歌、俳句など多彩に収録。A5版156頁、定価1000円、送料270円。

制作・治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟

